

企画事業「外国の青少年を対象とした国際交流事業」
「外国人青少年を支援する事業」

平成23年3月7日（月）～3月8日（火）
（1泊2日）



I 事業の背景

近年、在住外国人が増加し、言葉の違いによるコミュニケーション能力の不足、生活や慣習への不適応が社会問題となるケースが少なくない。また、「機構活性化プラン」として課題を抱える子どもを対象としたプログラムの開発を関係機関や団体と共同で進めることが提案された。課題を抱える子どもの例として日本の生活に適応が困難な在住外国人を対象とするプログラムが考えられ、実践した。

II 事業の概要

1 趣旨

県内で在住外国人の多い浜松市と連携をし、「日本の遊び」や「もちつき」などの活動を通して日本文化を体験し、日本についての理解を深め、交流や親睦を図り、日本社会への適応促進の一助とする。

2 参加対象

浜松市在住の外国人の子ども 20～30名

3 参加状況

16名（男性：5名 女性：11名）

4 企画のポイント

（1）浜松市教育委員会

市内在住の外国人の子どもの人数と国籍、その特徴や日本人との意識の相違などの情報を収集し、体験活動を取り入れた3泊4日程度の合宿を提案したが、以下の課題が見つかった。

- ① 1日1,600円（食費）の経済的な負担
- ② 御殿場で活動する意義

（2）浜松国際交流協会

外国人青少年の現状を考えると以下の点が企画のポイントとなる。

- ① 若者対象ならば、参加が就職つながる内容
- ② 少年対象ならば、長期（3日程度）になると親が不安に思うため、1泊2日の内容

（3）カトリック浜松教会

不就学児が通う、ブラジルの教育課程を取り入れた学校として新聞で紹介されたことを契機に体験活動を取り入れた企画への参加を呼びかけた。

5 主なプログラム

日本の遊び・・・けん玉 おはじき あやとり 折り紙など



もちつきとおもち料理・・・もちつき体験 白玉団子作りなど



Ⅲ 事業ノウハウ

1 関係団体との連携

今回は、県内で最も在住外国人が多い浜松市を訪ねた。浜松市教育委員会、浜松市国際課から情報を集め、その結果、幅広い活動をしている国際交流協会へつながった。

複数の市町村の国際交流団体等から情報を集め、各団体のニーズを精査し、共通する課題の解決につながる企画が有意義になるのではないかと考える。したがって、近隣市町村との連携により、広域に在住する外国人を対象にした企画が望まれる。

2 子ども達の様子（子ども達の発言をもとに）

- ・ 初めてのバス旅行でワクワクしている。（バスの中で）
- ・ こんなにたくさんの雪は初めて。（開催中の2日間は雪）
- ・ これってどうやって遊ぶの？（おはじきを見たことがあっても遊び方を知らない）

3 工夫が必要な点

遊び体験で伝承遊びの玩具を準備した。遊びを強要しにくく、個人やグループの自由な遊び時間となってしまった。遊びを「見る」、玩具を「つくる」、使って「遊ぶ」という流れのある遊び体験になるように工夫したい。

担当：企画指導専門職 鈴木 眞成